

件名	堺市生物多様性メールマガジン vol. 45
配信日	1月21日（月）
内容	<p>【生物多様性コラム】</p> <p>堺市の「赤とんぼ」の変化について、大阪府立大学の平井規央准教授に教えていただきました！</p> <p>*****</p> <p>秋の風物詩でもある「赤とんぼ」は、アカネ属 <i>Sympetrum</i> のトンボを指し、堺市ではこれまで15種あまりが確認されています。</p> <p>この仲間は最近とても減ったといわれています。</p> <p>大阪府立大学中百舌鳥キャンパス（堺市）で私たちが行った調査では、1997年にはアキアカネ、ナツアカネ、ノシメトンボが年間合計で500個体以上確認されていました。</p> <p>2005年には同様の調査でアキアカネとリスアカネのみで50個体あまりと10分の1程度となり、2015年以降にはアキアカネとタイリクアカネをまれに見かけるものの、キャンパス内で赤とんぼを見つけるのが困難なほどになりました。</p> <p>減少の原因としては、水田の減少や農薬の影響などが考えられています。</p> <p>先日まで開催されていた堺いきもの情報館のイベント「さかい赤とんぼグランプリ」では、投稿が集まるか心配していましたが、結果としては12種もの赤とんぼが発見され、驚くべき記録も少なからず含まれていました。</p> <p>特に注目すべきは、環境省レッドリストで絶滅危惧IB類のオオキトンボが複数確認されたことです。最近各地で減少の著しいナニワトンボや、堺市では記録のほとんどないミヤマアカネの投稿もありました。</p> <p>今後はこれらの生息地にも注目して貴重なトンボを守ることができればと思います。</p> <p>*****</p> <p>昨年開催した「さかい赤とんぼグランプリ」の開催結果まとめは、こちらをご覧ください。</p> <p>http://www.sakai-ikimono.jp/result/netevents/akatombo</p>